〈第52号〉 2012年11月30日発行

ふなばし
国際交流協会ニュース

FIRA
fira.jp

船橋市国際交流協会設立25周年記念式典

船橋市国際交流協会設立25周年記念式典が、来賓及び協会々員など総勢170余名出席の下、平成24年10月4日船橋市役所大会議室にて開催されました。

冒頭、田村会長が挨拶し、船橋市国際交流協会設立の経緯とこれまでの活動、及び今後の活動に向けての4つの重点課題について説明をしました。

記念式典は、引き続き船橋市長、船橋市議会議長、野田首相令夫人、船橋市商工会議所会頭及び習志野市国際交流協会長からの祝辞を受けた後、野田首相、外務省国際交流局長、千葉県国際交流協会長及びヘイワード、西安、オーデンセ各提携都市々長からの祝電も披露されました。

この設立25周年にあたり、船橋市長より船橋市国際交流協会歴代の会長に、船橋市国際交流協会長より国際交流協会活動に長年に亘り功績のあった協会員39名にそれぞれ感謝状が贈呈されました。

最後に、㈱NAAリテイリング会長　小堀陽史氏による「激化する空港間競争の中で」と題する記念講演を受け、盛会のうちに式典を終えました。

田村会長挨拶の要旨

当協会は船橋市のヘイワード、西安、オーデンセの各都市との姉妹・友好都市提携を契機に1987年に設立され、ここに25周年を迎えました。2000年頃までは市と連携しながら都市間交流を深化させると共に、これらの活動を軸にいろいろな交流活動の幅を拡げる創成期でした。設立20周年を機にそれまで市直轄活動であった三つの交流活動も協会に移管統合してこれら活動の相互連携と強化も計って来ました。

昨今、我々は在住外国人急増の局面を迎えています。「多文化共生」に向けた活動の強化がより大きな課題となって来ていると考えます。災害時外国人支援活動など幾つかの共生に向けた活動が既に成果を上げつつありますが、設立25周年を機に協会は次の4点に重点を置いた活動をより強化して行きます。

①在住外国人への支援強化、
②在住外国人との交流機会の拡大、
③姉妹都市との交流の幅の拡大、
④市民の国際理解機会の強化。

広報委員　廣田

藤代市長より感謝状を授与される金子 三智子元協会長

田村会長より感謝状を授与される野上 紘子相談窓口委員長

式典会場に展示されたパネル

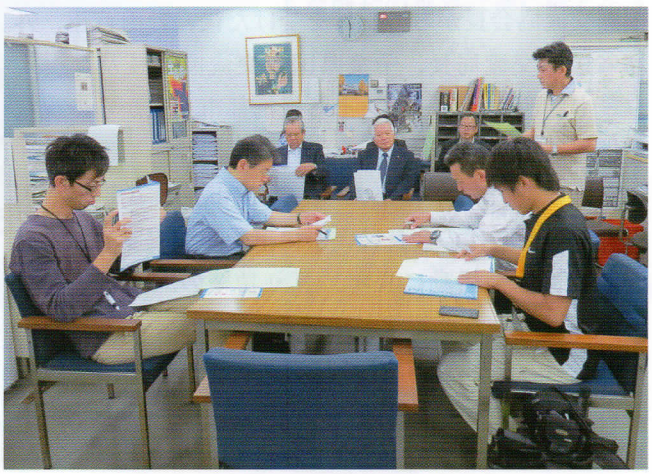
講師　小堀氏による講演

氏はスクリーンを利用して、成田空港の歴史から施設、役割、他空港との比較や成田空港の将来について、幅広く語られた。

記者会見

協会設立25周年記念式典を開催するに当たり、10月28日に船橋市役所内、記者クラブ室に於いて記者会見が行われた。

協会設立の背景から、協会が果たして来た役割、国際交流を円滑にする活動について理解を求めた。市と協働して外国人にも住みよい環境整備をめざして、交流活動を続けている多くの事例を発表した。　広報委員　中谷



祝　賀　会

記念式典に続いて、17時より同じく市役所の地下食堂に場所を移して、祝賀会が開催されました。嘉規副会長と伊藤ヨシ子さんの司会のもと、田村会長と松戸副市長の挨拶で始まりました。松戸副市長から、「船橋市と3市の姉妹・友好都市提携は北米、アジア、ヨーロッパにそれぞれ位置する広い地域との交流をめざしたものです」との説明がありました。その後、竹口船橋市貿易振興会会長の乾杯音頭で和やかな歓談の輪が広がりました。

祝賀会に花を添えたのがアトラクションのベリーダンスで、フィリピン人女性1人と3人の日本人女性による華やかな舞いに、しばしの間手拍子を打って楽しみました。

今後のますますの協会の発展を願い、小石25周年記念式典実行委員長の「手締め」で会はお開きとなりました。

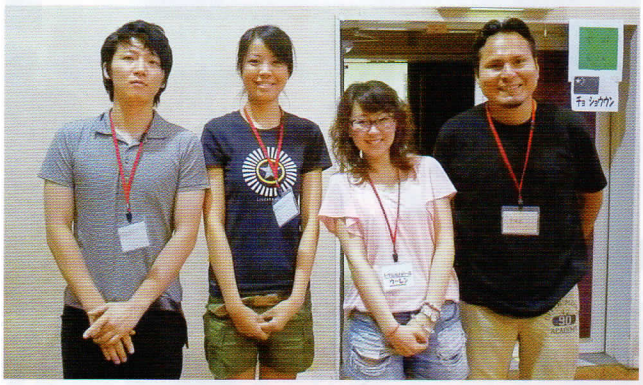
広報委員　中川

多文化交流

①国際交流イベントin薬円台公民館

現在千葉工業大学に留学している学生4人による子供達との交流イベントが8月4、5日の二日間薬円台公民館で開催されました。両日ともお弁当持ち込みで、朝9時30分から15時45分まで薬円台公民館の近くの子供達が集まり、楽しい異文化交流を体験しました。写真左から2人目の褚さんは「鷹のひよこ猟り」のゲームを担当しました。

広報委員　塚原



左から順に韓国のミンさん、中国のチョさん、モンゴルのウーレンさん、ペルーのラモスさん

②日本留学と薬円台公民館での小学生との国際交流

私が中国から日本に来たのは2009年9月で、あっという間に3年が経ってしまいました。

日本に来て間もない時は、日本語はあまり話せず、買い物やウインドウショッピングでは問題ありませんでしたが、知らない人ばかりの群衆の中で歩くのは少し不安だと思いました。早く日本語を上達したいという強い気持ちが生まれ、明海大学別科で1年半日本語を勉強し、初めて日本、日本人、日本文化、日本事情に接しました。一日も休まず頑張った結果、日本語能力試験N1を取得しました。日本語学校を卒業し、千葉工業大学大学院に入学しました。日本語も日常生活はほぼ困ることなく、少しずつ日本での生活に慣れ親しめるようになりました。大学院の授業は、日本語では分からない時に英語で質問出来たので助かりました。日本人の学生さんと一緒に研究や実験をしたり、時に大好きなラーメンを食べたりお好み焼きパーティをしたりする内に、友達もたくさん出来、いつの間にか最初の不安と寂しさが消えていきました。

今回、薬円台公民館が開催した小学生との国際交流のイベントに参加し、小学生と一緒に外国の遊びなどを通して、多文化交流することができ、とても嬉しく思いました。

千葉工業大学　工学研究科　生命環境科学専攻
修士2年　褚（チョ）　笑雲

はじめの一歩（韓国）

セブンペガドス（ペルー）

ドンダオル（中に入って遊ぶの意、モンゴル）

鷹のひよこ猟り（中国）

ヘイワードのガス&チヨ トミタ夫妻来船

10月27日ヘイワードの姉妹都市委員会のメンバーで、Mrs.セツ ツルモトのアシスタント役として、昨年の交流25周年記念訪問時 藤代市長一行のディナーをご自宅でもてなされたトミタご夫妻が船橋に立ち寄られました。

今回の来日はＪＲの外国人旅行者にお得なレールパスを使って、紅葉の日本を観光されるためです。

到着した夜、市長・協会長をはじめお二人にお世話になった関係者20数名が集まり、市内の中華料理店で歓迎のパーティーが開かれました。

翌日 秋の奥只見に向かってバックパックを背負い出発されました。

広報委員　田嶋

災害時外国人サポーター研修

今年で6年目を迎えた「災害時外国人サポーター」研修が7月21日（土）から9月8日（土）まで、外国人避難所宿泊訓練を含め4回（全6回）行われました。実際にはどんなことをするの？という協会員も多いと思います。災害が発生し、市に災害対策本部が設置されると、災害発生後3日をめどにサポーターグループによる「多言語支援センター」を立ち上げ、避難所にいる外国人の支援にあたります。その間、外国人の皆さんは自力で災害に対応しなければなりません。事実、東日本大震災では多くの外国人がその場で判断を迫られました。それを受け、今年の避難所宿泊訓練では、従来の「多言語支援センター」立ち上げや外国人への聞き取り訓練のほかに、参加外国人を対象に防災講座を実施。「地震」「津波」「避難所」などの漢字の読み方、屋内・屋外、エレベーターにいたときどうすればいいかなど、知っておいてもらいたい防災の知識、用語の紹介を行い好評でした。今後はさらに、外国人にもサポーター登録してもらうよう活動を広げていきたいと思います。

総務委員会　災害時外国人サポーターグループ
サポーター　木村　ゆみ

外国人避難所宿泊訓練（8月25～26日）

今回、海神小学校での宿泊訓練に参加させていただいたのですが、実際に体験してみなければわからないことだらけでした。今回は照明も扇風機も使えたのですが、体育館の中にいるよりも外のほうが風が吹いて涼しかったこと。蚊に刺されたこと。トイレに行くということがストレスに感じてしまうこと。何より、日本語がよくわからない人とお互いにどのようにしてコミュニケーションをとればいいのか、わからないことだらけです。今回は1泊2日と終わりがわかりそれまで我慢すれば良いという思いがあるので、多少のストレスは我慢できますが、これが実際の災害になるといったいいつまで続くのか、そのストレスははかりしれず、そのストレスをぶつけるのはやはり、同じ被災者同士だったり、支援者にもぶつけたりするのだろうと考えられます。そんな時に私はレクリエーションを通して以下の6点のことを重点に考えながらストレス解消のジャンケンゲームの司会をしました。

1　老若男女誰でも参加
2　コミュニケーションを重視
3　ルールが簡単
4　道具が要らない
5　体力の有無が勝敗に影響しない
6　最後の一人までやらない（残り約1/4人数がいるくらいで、負けている人に配慮してやめる。）

握手してからじゃんけんをし、レクリエーションのスタートとしました。何より皆様の協力により笑顔が自然と見られ、辛い災害時でもお互いに協力して楽しめるような体験を共有させていただきました。有難うございました。

文化交流委員　（専門学校生）松本 隆志

海神小学校体育館でのレクリエーション風景（ジャンケンゲーム）

文化交流委員会主催　バス ハイク（研修）報告

文化交流委員会が企画・主催した「バス・ハイク研修」が、平成24年11月5日（月）に42名出席で開催されました。外国人7名を含む和気あいあいの旅でした。

市役所前を9時に出発して、本年2月にオープンした「東京湾ゲートブリッジ」を徒歩で見学した後、「海ほたる」で各自思い思いの昼食を味わいました。そして、本年4月にオープンした「三井 アウトレットパーク木更津」に向かいました。広大なエリアに、世界各地のブランドショップが並び、まさに現代の憩いの場を気楽に楽しみました。帰りのバスの中では秋にちなんだ歌を5曲歌った後、ビンゴゲームで盛り上がりました。予定通り市役所には16時30分に帰着しました。

文化交流委員会　鈴木　弘子

国際理解セミナー ～世界の国からこんにちは～ インドネシアの夕べ

今年度第1回の国際理解セミナーが、11月12日（月）18時半より、フェイスビル6階の「きららホール」で開催され、およそ180名の参加がありました。

田村協会長、松戸副市長、梅田外務省国際協力局長の挨拶に続いて、ムハンマド　ルトゥフィ駐日インドネシア共和国特命全権大使による講演になり、バリ島の美しい映像を鑑賞後、お国の紹介が始まりました。

講演は大使のインドネシア語を日本語に通訳するというやり方で①地理、②歴史、③民主主義、④経済について映像を使いながらおこなわれました。

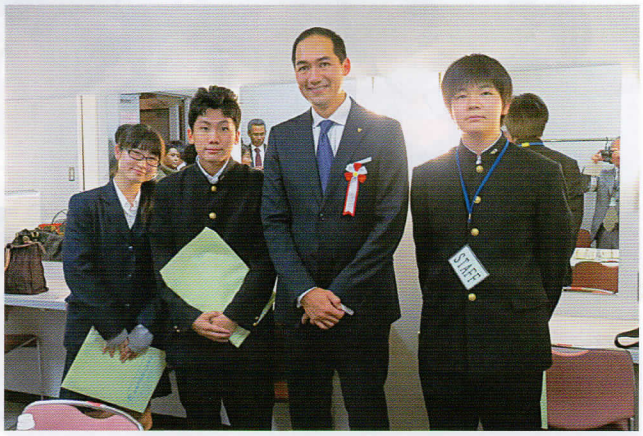
インドネシアは17,508の島々におよそ237百万人が住み、東端から西端の距離が6,400kmあり、ジャカルタ、東京間の距離が5,795kmということからもその広さが伺えます。観光地紹介ではバリ島以外の場所として、ムンタワイ島（サーフィン天国）、コモド島（世界自然7不思議の一つであるコモドドラゴンが生息）、ラジャ　アムパット島（サンゴ礁の宝庫でダイビング天国）の素晴らしさを話されました。

歴史に関しては、7世紀から王国が存在したがオランダの統治や日本による占領を経て共和国となり、今では世界に冠たる民主国家であることを誇りにしています。経済成長率も高く、2050年には世界5位の経済力を持つ可能性を示す指標も発表されています。また親日感情も良く、過半数の国民が、日本との通商が大切であり、インドネシアにとって日本は重要な国であると感じているようです。

今回初めて船橋市立船橋高校の3人の生徒にスタッフの手伝いを体験してもらいましたが、今後の更なる国際交流事業への若い人の参加のきっかけになったことを祈ります。

広報委員　中川

ルトゥフィ大使の講演



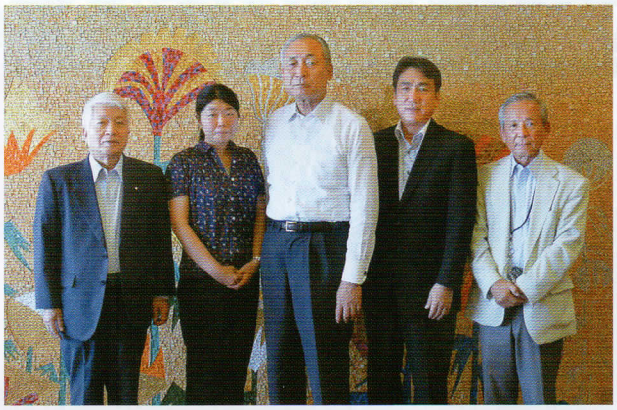
大使と市立船橋高校の生徒たち

姉妹・友好都市ホット通信

No.2 ☆ 姉妹都市ヘイワードへの留学生による市長表敬訪問(10月1日)の巻 ☆

第21期留学生（帰国）
大野 陽子さん

「きっと色々な文化、宗教、考えを持つ人が集まるに違いない、ルームメイトと気が合わなかったらどうしよう、言葉が通じなかったらどうしよう、食事は一緒に食べるのかな、相部屋でしっかり勉強に集中できるかな・・・」実は出発前は勉強のことよりもルームメイトのことで不安がいっぱいだったのを覚えています。



藤代市長を表敬訪問した大野さんと田村会長及び嘉規・中谷 文化交流委員会役員

船橋市は海外の三カ国三都市と姉妹・友好都市を提携しており、その歴史は25年にもなります。その記念すべき節目の年に、私は第21期留学生としてアメリカの中でも多民族・多文化が集まるサンフランシスコの対岸にある都市、ヘイワードにある大学に通えることになったのです。

留学中に韓国料理店でルームメイトと食事した時の写真（左側から二番目）

しかしいざ入寮すると、そんな心配が一掃されるほど素敵なルームメイトに恵まれ、最高の9か月間を過ごすことができました。イラク、フィンランド、アメリカ、台湾、フィリピン、メキシコなど、本当に多様な背景を持つ人々と暮らし、勉強することができました。

「内向き志向」と言われる昨今の日本ですが、一歩踏み出して得たものは何にも替えがたいものでした。ぜひ多くの方に一歩踏み出す気持ちを持ち、国際交流をしてほしいと思います。私も頑張ります。

日本語教室紹介シリーズ

No3. 中央公民館（火曜日9：45~11：45）

日本語教室訪問第3弾として、学習者数も70名余、支援者20名余と規模の大きい先達的教室である中央公民館教室を訪問した。

さまざまな国籍を持つ30～40名の学習者達が日本語習得にいそしんでいる様子を垣間見て、協会の本旨とする多文化交流と我々市民との円滑な共生の造成に向けた草の根的活動が着々と地道にかつ鋭意行われていると感じた。

我々の風習と日本語を習得した学習者達が基軸となって、国際交流の輪が更に拡がることを期待したい。

日本語教室は4部屋を使い、極力少人数単位で行われており、特に入門段階では支援者一人に数名の学習者の編成で基礎を満遍なく指導している。

真剣な眼差しで学習する学習者達の態度には感銘を受けたし、各支援者を横断的に繋いで、落ちこぼれの学習者が出ないように奔走する支援者のリーダーが核と成って鋭意学習者達の熱意に応えようとする支援スタッフの真摯な対処にも感銘を受けた。

ある上級クラスの支援者は教材の文面に登場する‘畳’という日本固有の生活様式に密着した用語を理解させる為に5～6冊の日本の風俗様式を絵図化した教材を周到に用意して、日本文化の生活様式を解らせたいと熱い想いを語ってくれたのも印象深かった。

広報委員　石原

習志野市国際交流協会設立25周年アニバーサリーパーティ

快晴に恵まれた秋の気持ち良さを感じる日であった。「習志野市国際交流協会設立25周年式典」に招待された。　会場はモリシア津田沼４階の、多目的ホールで、来場者は料理・談話・アトラクションに興じた。横断幕に、「設立25周年　アニバーサリーパーティー」の名称は洒落てると思った。

記念式典の後、3部門のアトラクションがあった。

1.市民によるバイオリン演奏は可愛いかった。

2.「林 静誠とシーフレンド楽団」のジャズ演奏は、素人市民楽団で長年の練習成果が感じられた。

3.講話「健康と水」は、協会副会長による専門的な話であった。短時間でも興味ある内容だった。

この式典のプログラム表紙作成は地元の市立習志野高校の生徒が担当しました。

広報委員　中谷

第３回千葉県国際交流協会連絡協議会

表題の協議会が、平成24年10月29日（月）に、本年度担当の習志野市国際交流協会が進行役で、津田沼で開催された。

今回から千葉県総合企画部国際課も参加し、12都市の国際交流協会が、「災害時の相互支援」「青少年交流事業の内容」「外国人会員の増やし方」など７項目の課題について活発に意見交換が行われた。

広報委員　中谷

お　知　ら　せ

＜カリフォルニア州立大学への留学生を募集＞

姉妹都市であるアメリカ・ヘイワード市のカリフォルニア州立大学イーストベイ校への留学生（1年間）を募集します。

期　　間：25年9月中旬～26年6月中旬
対　　象：以下の全てに該当する人
①日本国籍を有し、市内に継続して1年以上住んでいる（親元を離れて市外の大学に通う人も含む）
②平成5年4月1日以前に生まれ、高校を卒業している
③TOEFL525点（iBT71点）以上を取得
④協会の会員となり、協会の交流事業等に協力できる。
※詳細は、募集案内を参照。
募集人数：3名
受入学部：芸術、文学、社会科学、経済、教育、科学
選考方法：１次→書類選考、2次→英語・日本語の面接（2月17日（日））
申　　込：2月1日（金）（必着）までに、所定の用紙を国際交流協会（〒273-8501※住所不要）へ
※用紙は、協会事務局で配布。または協会ＨＰでダウンロード可。

＜「2013年春のつどい」の開催のお知らせ＞

開 催 日：2013年3月16日（土）
時　　間：午前11時～午後2時
場　　所：宮本公民館　講堂
定　　員：先着200名
参 加 費：中学生以上　1000円（事前購入）
問い合せ先：国際交流協会　事務局　047-436-2083

あとがき

先日、秘湯と呼ばれている山奥の温泉に行ってきた。そのように呼ばれるだけあって宿の部屋にはテレビもなく、日が落ちて夜になると裸電球がぽつんとひとつほの暗い光を放つだけだった。日頃から都会の喧騒に慣れているとこのような静寂の世界は逆に何となく落ち着かない。渓流沿いにある露天風呂に浸かっていると、見えるのは満天の星と聞こえるのはせせらぎの音だけ。短時間の滞在であったが日常生活の汚れが体から洗い流されていくような清々しい気分を久しぶりに満喫することができた。

（SM）

〈発行〉船橋市国際交流協会　〈事務局〉船橋市役所国際交流室内　〒273-8501　船橋市湊町２－10－25
TEL 047－436－2083　FAX 047－436－2089　ホームページアドレス http://fira.jp